



“ぎまままに”川柳

今月のお題

敬老

健康で すてきな笑顔 長寿祝し ジョージ	数える孫 指かして 敬老の日 服部ハツ義	人生は 泣いて笑って 敬老会 小阪辰夫	ケイロウは 軽老かと 爺が言い ぼこべん	敬老日 衿を正して 今の幸 ツネヨ	年重ね 苦楽乗り越え 敬老日 森本千代美	引いた手に 引かれ祖父母は 敬老会 月丘夢子	傘寿すぎ 何故か口だけ 達者です ラン
-------------------------------	-------------------------------	------------------------------	-------------------------------	----------------------------	-------------------------------	---------------------------------	------------------------------

■応募方法
 住所・氏名またはペンネームを明記し、直接または郵送、Eメールで広報広聴係へ。
 〒509-5192 (住所不要) ✉ koho@city.toki.lg.jp
 ☎ 1111 (内線185) / FAX 7763
 ※応募多数の場合は採用されないことがあります。

10月1日号の投稿募集
 お題は「旬」です (1人1句)。
 締め切りは9月18日(火)です。

わたしの
ほやねさん

「ほやねさん」とは…
 つらいときや悩んだとき、そっと寄り添って「ほやね、ほやね」と話を聞いて、心を支えてくれる人

ほやねさんのコーナーで紹介されるエッセイを読んで、私にとってのほやねさんって誰かなあと考えたとき、ふっと二人の顔が浮かびました。一人は夫の祖父です。祖父は90歳を過ぎ、グループホームを利用することが多いため、自宅で家族と一緒に過ごす時間があまりありませんでした。私の息子は祖父にとって初めての内ひ孫でしたので、私は祖父孝行と思い息子を連れてグループホームをよく訪ねました。祖父はそのたびに、必ず満面の笑みで私たちを迎えてくれました。そのうち、私がその笑顔を見たくてその笑顔に癒されたくて、会いに行っていることに気付いたのです。

もう一人は近所のおばさんです。私が少し咳をしたり風邪気味だったりすると「大丈夫?」「無理するんじゃないよ」と優しく声を掛けてくれます。元気ないと「頑張れ」と励ましてくれます。

今まで私は、周りの人たちの何気ない優しさに気付かずにはいましたが、どんな時も優しいまなざしと笑顔で迎えてくれる人がいること、自分のことを見守ってくれる人が近くにいることに気が付き、今では「自分は一人じゃない」という安心と幸せを感じています。あなたの周りにも、あなたにとってのほやねさんがきっといると思いますよ。



ペンネーム Y (土岐津町)

募集

掲載の「わたしのほやねさん」ストーリーの他、市内に実在する「まちのほやねさん」を募集します。あなたがこれまでに会ったほやねさんを400字程度の紹介文と一緒にお寄せください。

■応募方法
 住所・氏名またはペンネーム・電話番号を明記し、直接または郵送、Eメールでまちづくり推進課へ。
 〒509-5192 (住所不要) ✉ machisui@city.toki.lg.jp
 ☎ 1111 (内線186) / FAX 7763
 ※応募多数の場合は採用されないことがあります。